



経営上のお悩み、相談しませんか？

「よろず支援拠点」は、国が平成26年度から全国に設置している無料の経営相談所です。中小企業の皆さまの売上拡大や経営改善等、経営上のあらゆるお悩みに対応します。

相談事例の紹介

いいモノだから響いた！不織布商品の魅力を地方から全国へ
～小さな一歩から始まる、大きな可能性を生むプレスリリース～

担当コーディネーター

神庭 芳久

01 相談のきっかけ



WEBやSNSによる情報発信支援を行う中で、相談者から「新商品の魅力をもっと多くの人に届けたい」という声を受けたことをきっかけに、プレスリリース作成などの支援が始まりました。

相談者は、日本有数の和紙の産地である土佐市に本社があり、紙や不織布加工・販売を行っています。自然由来の素材を使い、環境配慮の新商品「SUITTO ロールmini」を地元を超えて全国に広めたいと考えられていました。

02 現状分析と課題把握



これまでの広報活動では、地元の方からの反響は一定数獲得していたものの、県内を中心とした情報発信にとどまっていた。新商品を全国発信するためには「伝統的工芸品“土佐和紙”の技術を活用していること」や「料理やスキンケアなど生活全般で使える」、「多用途に使える環境に優しい」などの商品の魅力を記者に伝えるため、①『プレスリリース』内容の改善と②『メディアアプローチ手法』の見直しが必要だと考えました。

03 解決策と提案の実施



①『プレスリリース』の中でも重要となるタイトル部分は、商品の魅力（強み）が伝わるキャッチコピー的な要素を取り入れるよう提案しました。また、商品のポイントを箇条書きにするなどレイアウトも改善しました。②『メディアアプローチ手法』として、記者クラブへのリリース投稿を提案。地元紙だけでなく全国紙の地方版掲載や系列媒体に拡充することを目標にしました。

これらの取り組みで、地元から全国に広がる報道ネットワークを活かし、商品の魅力を多くの人に届けるための基盤を築きました。

04 支援の成果



支援の結果、国内最大の経済総合紙「日本経済新聞」に製品情報が掲載され、さらに系列のマーケティング専門誌「日経 MJ」にも掲載されました。これにより、従来の広報 PR 手法では届かなかったターゲット層にも情報が行き届き、企業や商品のブランディング強化に貢献しました。

また、日経新聞のデジタル版にも掲載され、商品の露出がさらに広がり、多くの人に魅力を届け、認知度向上につながる大きな一歩を踏み出すことができました。



相談者の声

新商品を発売するにあたり、プレスリリースの組み立て方や、メディアへのアプローチの仕方を教えていただき、とても勉強になりました。おかげさまで目標だった日経MJに掲載していただくことができ、大変感謝しています。

株式会社 三彩

代表 鈴木 佐知代
住所 土佐市北地4517番地2
TEL 088-852-3866



お問い合わせ・ご相談予約 (公財)高知県産業振興センター内 高知県よろず支援拠点

住所 〒781-5101 高知市布師田3992番地2 高知県中小企業会館5階

MAIL yoroZu@yoroZu-kochi.go.jp

TEL 088-846-0175 対応時間 8:30～17:15(土日祝日を除く平日)

高知県よろず 検索

